

事例 NO.32		
事業の種類	農業・農村	
環境配慮の概要	自然環境の保全に配慮した排水路の整備	
事業名	県営ほ場整備事業 大朝西部地区	
事業主体	広島県（担当機関：芸北地域事務所農林局農村整備課）	
実施場所	広島県山県郡大朝町筏津	
実施期間	平成2年度～平成11年度	
事業概要	全体事業費	1,080百万円
	施工区間等	筏津上工区幹線排水路 L=900m
	事業の目的・経緯等	江の川上流部に位置する本地域では、ほ場整備着手前の水路にヤマメなどの魚類やオオサンショウウオなどが生息しており、地元から環境保全の要望があったため、石積みの水路とするなど環境との調和へ配慮しながら排水路を整備した。
環境配慮の内容	<p>工法等</p> <p>(1) ほ場整備事業整地時に出た石礫を利用した水路護岸 ほ場整備基盤切盛から整地時に出た石礫を集積し、これを利用して水路護岸整備を実施した。</p> <p>(2) 山際への水路配置と残地を利用した水路の蛇行 排水路を山際へ配置し、自然に近い形で蛇行させるとともに、残地を利用して親水空間を設けた。</p> <p>(3) 現況河川放流口の利用 従来の河川放流口をそのまま利用して本川との連続性を確保している。</p>	
施工後の状況	<p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施工後、数年でホタルが舞うなど自然環境が徐々に回復しつつある。</li> <li>・水路には小魚類の生息も確認されている。</li> <li>・地元住民の手で水路周辺に花の植え付けが行われ、親水空間としての役割も果たしている。</li> </ul>	
留意点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水路として整備しているため、流量が常時確保できておらず、十分な水深がないので魚類等にとって安定した生息場所となっていない。</li> <li>・残地を多くとったため、草刈り等の維持管理作業が大変である。</li> </ul>	

(図面, 写真, 説明)



【石積み排水路】  
周辺のは場から出た石礫を  
利用して水路を整備した。



【整備直後の全景】

出典